1 救急の総括

① 活動概要

令和7年中における救急活動の概要は、出動件数10,581件、搬送件数9,726件、搬送人員9,755人であった。 前年と比較すると、出動件数は293件（2.8%）、搬送件数は352件（3.8%）、搬送人員は332人（3.5%）といずれも増加している。過去5年間の推移をみると増加傾向にあり、令和7年は前年、前々年に続き1万件を超え、過去最多を更新した。

② 出動状況

事故種別ごとの出動件数を前年と比較すると、急病（179件増）、一般負傷（79件増）、転院搬送（61件増）、交通（19件増）などで増加がみられた一方、火災や自損などは減少した。 時刻別のピークを事故種別でみると、急病・一般負傷・転院搬送は「10時～12時」、交通は「16時～18時」の時間帯に集中している。

③ 搬送状況

搬送人員を傷病程度別でみると、軽症3,701人（186人増）、中等症5,629人（116人増）、重症425人（30人増）であった。年齢区分別では、新生児（転院搬送が最多）を除くすべての層において「急病」が最多となっている。収容医療機関については、管内が5,787人、管外が3,968人であり、全体の40.6%が管外の医療機関へ搬送されている。

④ 所要時間

平均所要時間は、入電から現場到着までが10.0分（前年比0.4分延伸）、病院収容までが40.0分（同0.4分延伸）となった。一方で、総所要時間は76.2分（同0.5分短縮）となっている。

⑤ 隊員の行った応急処置

搬送人員9,755人のうち、9,754人に対して応急処置を実施した（実施率99.9%）。処置内容別の実施回数では、観察活動における「血中酸素飽和度の測定」が最も多く、次いで「血圧測定」、「冷却・その他処置」の順となっている。

⑥ 不搬送件数

不搬送件数は合計855件であった。その理由は「辞退（到着後）」が473件と最も多く、次いで「拒否」が122件、「明らかな死亡」が119件と続いている。

⑦ 応急手当の普及啓発活動

令和7年中の講習実施状況は、上級救命講習1回、普通救命講習24回、その他の講習3回、救命入門コース123回で、計4,671人が受講した。

（事故種別の凡例）

1.	火　　災	火災現場において直接火災に起因して生じた事故。
2.	自然災害	暴風・豪雨・高潮・地震等の自然現象に起因する事故。
3.	水難事故	水泳中の溺者又は水中転落等による事故。
4.	交通事故	全ての交通機関相互の衝突及び接触又は単一事故。
5.	労働災害	各種工場・事業所・作業場等で就業中発生した事故。
6.	運動競技	運動競技の実施中に発生した事故。
7.	一般負傷	他に分類されない不慮の事故。
8.	加　　害	故意に他人によって傷害等を加えられた事故。
9.	自損行為	故意に自分自身に傷害を加えた事故。
10.	急　　病	疾病によるもの。
11.	転院搬送	医療機関から医療機関への搬送。
12.	そ の 他	医師・医療資器材等の搬送及び、その他上記に分類不能のもの。